

科目名	教育課程総論						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	下川 武志		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	幼稚園において幼稚園教諭として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	幼稚園・保育園・認定こども園では、このような子どもに育てたいと「保育理念」や「めざす子ども像」掲げて、日々保育を行っている。この保育理念に基づき、それぞれの発達段階に応じた保育内容がデザインされ保育が営まれる。この授業においては、各年齢の子どもたちの発達する姿を知り、幼稚園・保育園・認定こども園における教育(保育)課程の意味、教育(保育)課程に基づく年間、月、週計画の重要性について認識し、簡単な部分実習案を立案することを目指す。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	◎	○				乳児期と幼児期の子どもの発達の特徴について、説明できる。	
	◎	○				幼稚園・保育所・認定こども園の法的な位置づけの違い、利用対象者の違いについて説明できる。	
	◎	○				教育課程や保育課程についての概念、その編成や展開の仕方等について説明できる。	
		◎		○		指導計画およびその種類と作成の基本について、説明できる。	
	◎		○			ゲームや手遊び、絵本、制作活動などの部分指導計画が作成できる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・あたらしい幼児教育課程総論(岸井勇雄・横山文樹 著/同文書院) ・幼稚園教育要領 改訂・保育所保育指針 改訂・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 改訂について(上記テキスト付録の小冊子) ・保育所保育指針 解説書 ・幼稚園教育要領解説 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 ※このほか必要に応じて教員作成の資料を配布する。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション・乳幼児期の特徴			テキスト第1章を精読しておく。		
	2	教育課程の意義と方向(日本における幼児教育カリキュラムの基礎)			テキスト第2章を精読しておく。		
	3	幼稚園・保育所・認定こども園			テキスト第3章を精読しておく。		
	4	教育課程の基準(その変遷を中心に)			テキスト第4章を精読しておく。		
	5	幼児教育課程の基本			テキスト第5章を精読しておく。		
	6	幼児の姿			自分が幼いころ、どんな遊びが好きだったかまとめてくる。(A4半分程度にまとめてくる。授業後、提出を求める)		
	7	小テスト(第1回目)、幼児教育の目的・目標・ねらい・内容			第1回目から6回目までの内容を復習する。		
	8	小テストフィードバック、教育課程の編成と指導計画の作成			テキスト第8章を精読しておく。		
	9	春の指導計画(4・5・6月)の実際			テキスト第10章P170～176を精読しておく。		
	10	夏の指導計画(7・8・9月)の実際			テキスト第10章P176～190を精読しておく。		
	11	秋の指導計画(10・11・12月)の実際			テキスト第10章P190～203を精読しておく。		
	12	冬の指導計画(1・2・3月)の実際			テキスト第10章P204に対する自分なりの考えをまとめる。(A4レポート用紙1枚にまとめ、提出を求める)		
	13	教育課程の評価			テキスト第9章を精読しておく。		
	14	小テスト(第2回目)、小学校との連携			第7回目から13回目までの内容を復習する。		
15	小テストフィードバック、部分指導計画の作成、まとめ			テキストP170～172に示された3歳児教育課程を基に、部分指導計画作成についての構想を立てておく。			
評価方法	第12回目においては、授業外学修指示に従い、レポートの提出を行うこと。定期試験、小テスト、レポート、授業態度により総合的に評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				60%
	小テスト	◎	○				20%
	宿題・レポート		◎		○		10%
授業態度				◎		10%	
履修上の注意	・第7回目・第14回目の授業の冒頭に確認テストを行う。第7回目授業の際のテスト範囲は第1回～第6回までの授業内容、第14回目授業の際のテスト範囲は第7回～第13回までの授業内容とする。						

科目名	養護原理						
科目名(英)	Introduction to Child Care						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中山 八保子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	児童養護施設において保育士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	今日、児童と家庭を取り巻く生活環境の変化により、児童を家庭で養育することが困難なケースが増加している。『子どもの最善の利益』を追求するためには、家庭養護、施設養護を含めた社会的養護の基本的理解、社会的支援を受けながら生活している子どもとその家族にに関わる際の姿勢、援助が必要になってくる。3年次での児童福祉施設実習に向け、1年次の時点から児童福祉に興味を持ち、感じる力、考える力を身につけ、保育士としての役割、仕事内容を理解していく。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					社会的養護の基本理念を2つ挙げ、説明することができる。	
	○					家庭養護、施設養護について、説明することができる。	
		○				社会的養護を必要とする児童の気持ちを理解することができる。	
		○				児童福祉施設における保育士の役割を理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 社会的養護 I						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	自己紹介、科目ガイダンス(社会的養護とは何か)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	子育てについて(発達、社会状況)、子どもの権利				「こどもの日」にちなんだ新聞記事を読んでおく	
	3	「母の日」について				自分が生まれた時の様子を親に聞いてみる	
	4	現代社会に暮らす子どもと家庭①(少子化、核家族化、地域とのつながり)				少子化、家族の形態に関する記事を事前に読んでおくこと	
	5	現代社会に暮らす子どもと家庭②(教育、遊び、食の変化)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	子どもに起こる諸問題(社会的、学校、家庭内での問題)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	児童虐待①(現状、定義)				児童虐待に関する記事を事前に読んでおくこと	
	8	児童虐待②(児童虐待に関する法律、保育士の役割)				児童虐待に関する記事を事前に読んでおくこと	
	9	社会的養護の体系(家庭養護、施設養護)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	家庭養護(ファミリーホーム)、特別養子縁組について				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	里親制度について①(里親制度のしくみ、里親の種類)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	里親制度について②(里親の気持ち、里子の気持ち)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	施設の形態				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	児童養護施設について①(施設における日常生活について)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	児童養護施設について②(保育士の役割について)、まとめ				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 正試験を行うので、復習しておくこと	
評価方法	(1)出席状況 (2)授業態度 (3)授業終了後、感想を書き、ノートを提出する (4)定期試験(筆記)を実施する以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	ノート提出		○		○		10%
	授業態度				◎		10%
	出席状況				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	保育実技 I						
科目名(英)	childcare practice						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	上村 仁美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	児童養護施設において保育士として勤務		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	保育実習や現場に必要な教材の作成や絵本・手遊びなどの技術の習得を図る。また、こどもの年齢や発達保育の場に応じた絵本や手遊びの選択・必要な知識の学習を行う。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○	○		保育現場で実践する事が出来る絵本の読み聞かせを実施する事が出来る	
			○	○		保育現場で使える教材の作成(エプロンシアター等)が出来る	
			○	○		作成した教材を使ってこどもの前で実践する事が出来る	
	○		○			保育に必要な手遊びを実践する事が出来る	
			○			保育教材を作る為に必要な道具(はさみ・糊・ペン)の使い方を理解し、正しく使う事が出来る	
	○		○			以上児(3~5歳)のそれぞれの年齢にあった絵本を3冊以上選ぶ事が出来る	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業オリエンテーション 手遊びとは			製作道具を揃える事		
	2	ルーティーンワーク(手遊び・絵本) 鉄の使い方 壁面製作			絵本・手遊びの準備(担当者)		
	3	ルーティーンワーク(手遊び・絵本) 教材研究(クレヨン ペン)			名札製作の為に材料を準備しておく事		
	4	ルーティーンワーク(手遊び・絵本) 名札作り①			絵本・手遊びの準備(担当者)		
	5	ルーティーンワーク(手遊び・絵本) 名札作り②			絵本・手遊びの準備(担当者)		
	6	ルーティーンワーク(手遊び・絵本) 名札作り③			絵本・手遊びの準備(担当者)		
	7	ルーティーンワーク(手遊び・絵本) パネルシアター① 導入 計画			絵本・手遊びの準備(担当者)		
	8	ルーティーンワーク(手遊び・絵本) パネルシアター② 作成			絵本・手遊びの準備(担当者)		
	9	ルーティーンワーク(手遊び・絵本) パネルシアター③ 発表			絵本・手遊びの準備(担当者)		
	10	ルーティーンワーク(手遊び・絵本) 紙皿シアター① 導入 計画 作成			絵本・手遊びの準備(担当者)		
	11	ルーティーンワーク(手遊び・絵本) 紙皿シアター② 仕上げ 発表			絵本・手遊びの準備(担当者)		
	12	ルーティーンワーク(手遊び・絵本) エプロンシアター①導入 計画			絵本・手遊びの準備(担当者)		
	13	ルーティーンワーク(手遊び・絵本) エプロンシアター②作成			絵本・手遊びの準備(担当者)		
	14	ルーティーンワーク(手遊び・絵本) エプロンシアター③作成			絵本・手遊びの準備(担当者)		
15	ルーティーンワーク(手遊び・絵本) エプロンシアター④作成 まとめ			絵本・手遊びの準備(担当者)			
評価方法	(1)提出物・作品(2)授業中の発表回数・意欲・態度 以上を下記の観点から評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	提出物・作品	○	◎		○		50%
	意欲・態度・発表	○		◎	◎		50%
履修上の注意	教材製作の為に事前の材料準備が必要な授業が多い為、事前に指示を聞いて必要なものを準備して下さい。						

科目名	コミュニケーション論						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	姫田 尚子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	教育者としても社会人としても、自分と相手の考えや気持ちをやり取りする力、つまりコミュニケーション力は重要である。コミュニケーションの基礎になる「心の仕組みと働き」や「人と人との心の交流」を交流分析理論より学び、自分を上手に表現すること、また、相手を理解することの習得を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					交流分析理論を学び、人の心の仕組みや働きを説明することができる。	
	○					交流分析理論を学び、人と人がどのような心の交流をするのかを説明できる。	
	○	○				交流分析理論を使って、自分自身の日常のコミュニケーションを分析できる。	
	○					より良いコミュニケーションを築いていくための4つのポイントを説明することができる。	
○					率直に適切に自分を表現する方法を理解し、チャレンジできるようになる。		
テキスト・教材 参考図書	●実務教育出版 「TA TODAY」 ●PHP研究所 「自分の気持ちをきちんと伝える技術」						
授業計画	授業項目・内容			授業外学修指示			
	1	他己紹介ーコミュニケーションの基本 相手に興味を持つ					
	2	こころの栄養・ストローク～コミュニケーションに欠かせないもの					
	3	基本的立場～自分や相手に対して取る4つのこころの状態					
	4	基本的情動～感情の意味と、感情を感じることの大切さ					
	5	心理ゲーム～日常生活で行われる嫌なやり取りの、からくりと対処法					
	6	自分を上手に表現するために(1)～自分を伝えることとは					
	7	自分を上手に表現するために(2)～相手を理解することとは					
	8	まとめ～前期の復習			前期のまとめをするので、復習しておくこと		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	1) 毎回の授業の最後に「授業で理解したこと・感じたこと」を記入し提出 2) 演習への取り組みの姿勢 3) 定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				50%
	演習	○	◎		◎		30%
	理解したこと・感じたこと	◎	○				20%
履修上の注意							

科目名	ペン字 I						
科目名(英)	Penmanship						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	入江 陽子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者として、日常生活における硬筆書写の基礎力をつける。 ・正しいペンの持ち方・姿勢を守り書写することにより集中力をつける。 						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					正しい言葉づかいで書写することができる	
			○			書式に従って、美しい文字で書写することができる	
			○			正しいペンの持ち方・姿勢で書写することができる	
				○		集中力を持って取り組むことができる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ペン字の基本 — 氏名・基本点画			水性ボールペンを用意しておくこと		
	2	ペン字の基本 — 基本点画・数字			氏名の復習をしておくこと		
	3	ペン字の基本 — 字形の整え方・字形24体			基本点画の練習をしておくこと		
	4	ペン字の基本 — 平仮名の字源・平仮名の練習			字形の復習をしておくこと		
	5	ペン字の基本 — 横書きを美しく書くコツ			平仮名の復習をしておくこと		
	6	実用書 — 封筒の表書き			横書きプリントを仕上げしておくこと		
	7	実用書 — はがきの書式 暑中見舞い			はがきを用意しておくこと		
	8	ペン字のまとめ — 期末試験			今までのプリントをまとめておくこと		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業最終回で実施する期末試験を実技評価とする(持ち込み可) (2)出席を意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(60点未満)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(授業中)	○		◎			80%
	出席				◎		20%
履修上の注意	黒の水性ボールペンを用意 はがきを用意 試験時は、今までのプリント持ち込み可とするのでまとめておくこと						

科目名	レクリエーション I						
科目名(英)	recreation						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	添田 譲二		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	現代社会の中で、余暇やレクリエーションのもつ意味も、単なる気晴らしではなく充実した人生づくりの基盤の一つへと変化してきている。子どもたちにとって遊びそのものが生活の一部であると同時に、遊びを通して協調性や思いやりなど人間形成にも影響力をもっていると考えている。このような中でレクリエーションがもつプラスの価値をどのような支援体制で展開すればよいかを解説する。そこで、遊びを体験しながら遊びの必要性や支援方法を理解することを目標に授業を展開していく。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○					レクリエーションの必要性を理解して説明できるようになる	
		○		○		レクリエーションの多くの素材を覚えて支援することができる	
		○		○		コミュニケーションの手段の一つとしてレクリエーションの素材を使い分けることができる	
テキスト・教材 参考図書	楽しい遊びの商店街 プリント資料【配付資料】						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	レクリエーションの本質ならびに支援について(理論)					
	2	レクリエーションの素材の体験① (アイスブレイキングの方法)					
	3	レクリエーションの素材の体験② (仲間づくりのためのゲーム)					
	4	子どものあそびとレクリエーション(理論)					
	5	レクリエーションの素材の体験③ (身近な物でつくるクラフト)					
	6	レクリエーションの素材の体験④ (身近な物を使っての遊び)					
	7	集団内のコミュニケーションについて(理論)					
	8	レクリエーションの素材の体験⑤ (良好な集団づくりゲーム)					
	9	レクリエーションの素材の体験⑥ (意欲を引き出す遊び)					
	10	企画をするために必要なことについて(理論)					
	11	グループワーク・トレーニング① (レクリエーション演習)					
	12	グループワーク・トレーニング② (レクリエーション演習)					
	13	レクリエーションを対象者に合わせるアレンジ(理論)					
	14	レクリエーションの素材の体験⑦ (折り紙の世界)					
15	レクリエーション I のまとめ(理論)						
評価方法	授業中の課題に対して個人として取り組む。 グループを単位として、レクリエーション支援の企画をする。 授業の中で学んだレクリエーション情報をアレンジして、演習を通して提供する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	実技演習	○	○		◎		50%
	授業中の課題(個人)			◎	○		30%
授業中の課題(グループ)	○		◎	○		20%	
履修上の注意	心にゆとりをもち、さわやかな笑顔で受講すること。 授業内容を楽しむ気持ちをもって受講すること。 目を輝かせ動作はハツラツとすること。						

科目名	レクリエーション演習						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	中畔 政憲		
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	身近な物を使って製作した品を近大科目『造形表現(指導法)スクーリング』にてお店屋さんごっこという形で子どもたちに提供することで、今後、実施する設定保育の基礎を学んでいく。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		グループワークを通じて、仲間づくりと協調性の重要性を実感することができる	
		○				製作工程を通じて、保育技術の向上を実感できる	
		○				子どもたちの発達年齢に応じた遊びを選択し、実際に提供することができる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業ガイダンス					
	2	実施計画書作成(お店のコンセプト作り)					
	3	実施計画書作成(お店のコンセプト作り)					
	4	試作品製作					
	5	試作品製作					
	6	製作					
	7	製作					
	8	製作					
	9	製作					
	10	製作					
	11	製作					
	12	お土産作り					
	13	お土産作り					
	14	シミュレーション					
15	シミュレーション						
評価方法	①授業態度 ②作品 ③実践への取り組み 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度		○		◎		30%
	作品		◎		○		30%
	取り組み		○		◎		40%
履修上の注意	出席が10回に満たないものに単位は付与しない						

科目名	音楽表現(指導法)SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中村 寛子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 音楽に親しみ、これまで培った表現力を活かして、発表の成功を目指して努力する。 合唱や音楽あそびを通して保育者としての基礎力(表現力、チームワーク、向上心)を磨く。 						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
			○			聞く人も一緒に楽しめるよう、音楽を楽しむ	
				○		合唱や音楽あそびを通して、表現力、チームワーク、向上心を高める	
				○		人前で発表することの楽しさを感じ、成功体験を積み重ねる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1 日 目	オリエンテーション					
		合唱練習				自主練習・グループ練習をすること	
		ドレミパイプ練習				自主練習・グループ練習をすること	
		音楽あそび練習				自主練習・グループ練習をすること	
	2 日 目	通し練習				自主練習・グループ練習をすること	
		通し練習				自主練習・グループ練習をすること	
		病院で発表					
		病院で発表					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングに取り組む姿勢、クラスメイトとの関わり、スクーリング中の言動などを総合的に評価 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		取り組む姿勢		○	◎		50%
		クラスメイトとの関わり			◎		30%
		スクーリング中の言動		○	◎		20%
履修上の注意	遅刻・欠席は単位を付与しない						

科目名	音楽表現 I						
科目名(英)	music performance I						
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	中村寛子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	保育の現場では、音楽は必須のものとなる。朝登園後「おはようの歌」、昼食には「お弁当の歌」、お昼寝時には「お休みの歌」、降園時には「お帰りの歌」、その他にも自然や季節を感じて感性を高めるために「様々な季節の歌」、「遊びうた」、誕生会等の行事に行進を促す「行進曲」等。その音楽をすべて、保育士が把握をし、ピアノで伴奏していかなくてはならない。この授業ではできる限り沢山の曲を歌い、ピアノ演奏する。そのために必要な技術、知識を身に付けるものである。1年生の間は、とにかくピアノになれること、ピアノを嫌いにならないこと、楽譜を読むようになること、正しい音程で歌えるようになること、等を目標にして授業を進める						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○				音楽の基本知識となる、楽典の習得(楽譜、音符や休符、拍子、記号等の知識)		
		○			ピアノ演奏実技の習得(正しい運指、テクニック、左右の手のスムーズな動きバラバラな動きに対するスムーズな動き)		
		○			声楽の基本実技の習得(正しい音程、呼吸法、リズム等)		
テキスト・教材 参考図書	・近畿大学九州短期大学発行/ピアノ教本・声楽教本 ・チャイルド社発行/こどものうた100 ・ヤマハミュージックメディア発行/はじめての楽典ブック ・音楽の友社発行/バイエル教則本・講師作成の楽譜集(ファイル保管)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	・授業のガイダンス(20分)・音符と楽譜(楽典ブック)(15分)・5指内鍵盤の試奏(55分)			なし		
	2	・5指内鍵盤での聴奏(10分)・音符と楽譜(楽典ブック)(15分)・ミツパチマーチ(ファイル)の解説、歌唱指導(20分)、練習(35分)			ミツパチマーチの弾き歌いをしていく		
	3	・5指内鍵盤での聴奏(10分)・音符と楽譜(楽典ブック)(15分)の解説、・ちょうちょう(近大教本)解説、歌唱指導、演奏指導(20分)、練習(35分)			ちょうちょうをひきうたいしていく		
	4	・5指内鍵盤での聴奏(10分)・音符と楽譜(楽典ブック)(15分)・かえるのうた(近大教本)解説、歌唱指導、演奏指導(15分)、練習(40分)、お帰りの歌の歌唱指導(10分)			カエルの歌を弾き歌いしていく		
	5	・5指内鍵盤での聴奏(10分)・音符と楽譜(楽典ブック)(15分)・むすんでひらいて(近大教本)解説、歌唱指導、演奏指導(15分)、練習(45分)、お帰りの歌の歌唱指導(5分)			むすんでひらいてを弾き歌いしていく		
	6	・5指内鍵盤での聴奏(10分)・音符と楽譜(楽典ブック)(15分)・ミツパチマーチ(ト長調)の解説と演奏指導(15分)・お帰りの歌の歌唱実習(5分)			ミツパチマーチ(ト長調)を弾いていく		
	7	・5指内鍵盤での聴奏(10分)・音符と楽譜(楽典ブック)(15分)・BeeMarch(近大教本)の解説、演奏指導(20分)・お帰りの歌の歌唱実習(5分)			BeeMarchを練習していく		
	8	・5指内鍵盤での聴奏(10分)・ちょうちょう(ト長調)(近大教本)解説と歌唱指導、演奏指導(10分)・音符、楽譜(楽典ブック)(15分)・練習(50分)・お帰りの歌の歌唱実習(5分)			ちょうちょう(ト長調)を練習していく		
	9	・5指内鍵盤での聴奏(10分)・ミツパチマーチ(ヘ長調)(ファイル)の解説と歌唱指導、演奏指導(15分)・音符、楽譜(楽典ブック)(10分)・練習(55分)・お帰りの歌の歌唱実習(5分)			ミツパチマーチを弾き歌いしていく		
	10	・5指内鍵盤での聴奏(10分)・チューリップ(ヘ長調)(近大教本)の解説、歌唱指導、演奏指導(10分)・音符、楽譜(楽典ブック)(10分)・練習(55分)・お帰りの歌の歌唱実習(5分)			チューリップの弾き歌いをしていく		
	11	・5指内鍵盤での聴奏(10分)・ぶんぶんぶん(ヘ長調)の解説と歌唱指導、演奏指導(15分)・楽典(楽典ブック)(15分)・練習(45分)・お帰りの歌の歌唱実習(5分)			ぶんぶんぶんの弾き歌いを練習していく		
	12	・5指内鍵盤での聴奏(10分)・メリーさんの羊(近大教本)の解説、演奏指導、歌唱指導(15分)・楽典(付点四分音符)(10分)・練習(50分)・お帰りの歌の歌唱実習(5分)			メリーさんの羊の弾き歌いを練習していく		
	13	・5指内鍵盤での聴奏(10分)・ぞうさん(近大教本)の解説、演奏指導、歌唱指導(15分)・楽典(10分)・練習(55分)・お帰りの歌の歌唱実習(5分)			ぞうさんの弾き歌いを練習していく		
	14	・5指内鍵盤での聴奏(10分)・バイエル48番(バイエル教則本)の解説、演奏指導(15分)・楽典(10分)・練習(55分)・お帰りの歌の歌唱実習(5分)			バイエル48番を弾いていく		
	15	・5指内鍵盤での聴奏(10分)・おべんとう(近大教本)、おかたづけ(近大教本)の解説、歌唱指導、演奏指導(10分)・楽典(10分)・練習(55分)・お帰りの歌の歌唱実習(5分)			おべんとう、おかたづけの弾き歌いを練習していく		
	16	・山のおんがくか(近大教本)の解説、歌唱指導、演奏指導(15分)・楽典(10分)・練習(60分)・お帰りの歌の歌唱実習(5分)			山のおんがくかの弾き歌いを練習していく		
	17	・みずあそび(近大教本)の解説、歌唱指導、演奏指導(15分)・楽典(10分)・練習(60分)・お帰りの歌の歌唱実習(5分)			みずあそびの弾き歌いを練習していく		
	18	・はをみがきましょう(近大教本)の解説、歌唱指導、演奏指導(15分)・楽典(10分)・練習(60分)・お帰りの歌の歌唱実習(5分)			はをみがきましょうの弾き歌いを練習していく。		
	19	・たんじょうび(近大教本)の解説、歌唱指導、演奏指導(10分)・楽典(10分)・練習(65分)・お帰りの歌の歌唱実習(5分)			誕生日の弾き歌いを練習していく		
	20	・たなばたさま(近大教本)の解説、歌唱指導、演奏指導(15分)・楽典(10分)・練習(60分)・お帰りの歌の歌唱実習(5分)			七夕様の弾き歌いを練習していく		
	21	・せつけんさん(近大教本)の解説、歌唱指導、演奏指導(10分)・楽典(10分)・練習(65分)・お帰りの歌の実習			せつけんさんの弾き歌いを練習していく		
	22	・おかえりのうた(近大教本)の解説、歌唱指導、演奏指導(15分)・楽典(10分)・練習(65分)・お帰りのうたの実習(5分)			おかえりのうたの弾き歌いを練習していく		
	23	練習(90分)			すべての曲が合格しなければならぬ		
	24	前期試験			前期試験		
評価方法	授業の課題曲をすべて合格しなければ、合格基準を満たさないものとする。また、おはようとお帰りの曲は、どこの園に行っても必ず演奏されているため、授業の初めと終わりに、学生が先生役を務めて弾き歌いをする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	小テスト		◎		○		20%
履修上の注意	実習前は実習前から指定された曲の練習を最優先とする。						

科目名	教育原理						
科目名(英)	principle of education						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川原 ゆり		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科1年生						
授業概要	この科目は「保育士」資格を取得するための近大科目で、「保育」とは教育と養護を併せ持つ概念であり、「保育士」を取得することは＝「教育者」であるという視点が必要である。また人間が学校へ行き、勉強するのは社会性と共に思考力を身につけるためであり保育者をめざすものとして、知的好奇心を旺盛にし、学ぶ姿勢を持つことが重要であることを学ぶ、さらに、教育者になるために自分自身がどのように自分を見つめ、自分を成長に導けば良いかを考えるきっかけとする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		△		保育とは何かを理解し説明できる。	
		○		△		学校教育において勉強をする意味は何かを理解し、説明することができる。	
		○		△		保育士を取得することは教育者になるということを理解し、自分自身の成長に向けての努力ができる。	
		○		△		保育者として大切な知的好奇心を養い、伸ばすことができる。	
	○		△		自分の考えを分かりやすく発表することができる。		
テキスト・教材 参考図書	近大教科書『保育のための教育原理』垂水直樹・金俊華・大間敏行・三木一司著 ミネルヴァ書房						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	「教育」とは？教育を学ぶ意義～イントロダクション			授業レポート提出		
	2	「教育」と「保育」の関係について			内容理解のレポート提出		
	3	価値観の違い			価値観の違いについてグループディスカッション		
	4	学校教育はなぜ勉強をするのか？			内容理解のレポート提出		
	5	外国の教育と日本の教育の違い			内容理解のレポート提出		
	6	映画「学校」鑑賞					
	7	映画「学校」鑑賞つづき			感想のレポート提出		
	8	知的好奇心を伸ばそう!!不思議なこと探し(調べ学習)			調べ学習→発表の準備		
	9	知的好奇心を伸ばそう!!不思議なこと探し(調べ学習)			調べ学習→発表の準備		
	10	知的好奇心を伸ばそう!!不思議なこと探し(調べ学習)			調べ学習→発表の準備		
	11	知的好奇心を伸ばそう!!不思議なこと探し(調べ学習)			調べ学習→発表の準備		
	12	知的好奇心を伸ばそう!!不思議なこと探し(発表)			発表		
	13	知的好奇心を伸ばそう!!不思議なこと探し(発表)			発表		
	14	あらためて教育とは何か、保育とは何か			発表		
15	まとめ			まとめのレポート提出			
評価方法	(1)授業の出席状況。 (2)調べ学習への取り組み状況と理解度。 (3)調べ学習の内容を試験の代わりとするため試験は行わない。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	毎回の感想文	◎	◎		◎		20%
	調べ学習	◎	◎		◎		60%
	意見発表・グループワーク	○	◎		◎		10%
	出席状況				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、評価の対象としない。						

科目名	教育実習指導 I						
科目名(英)	Guidance to Teaching Practice(Kindergarden) I						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	前田 聖悟		
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	実習に行く目的を明確にし、幼稚園の1日の生活、活動の流れ、先生の役割、動きについての理解を深め、実習に必要な知識、態度を身に付けることで保育者としての基礎を培うことを目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					幼稚園実習の目的を理解する	
	○					幼稚園の1日の流れ、先生の仕事について理解を深める	
		○		○		実習の実践に向け具体的な保育方法を学び準備が出来る	
テキスト・教材 参考図書	同文書院版 幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業オリエンテーション					
	2	幼稚園実習の目的とは、実習のスケジュールについて					
	3	実習の1日の流れ、実習園の探し方について					
	4	幼児教育の方法について					
	5	実習生調査票記入に関して					
	6	光明幼稚園実習に向けての準備				実践に必要な道具、アイデア等準備すること	
	7	光明幼稚園実習に向けての準備				実践に必要な道具、アイデア等準備すること	
	8	光明幼稚園実習に向けての準備				実践に必要な道具、アイデア等準備すること	
	9	光明幼稚園実習振り返り					
	10	お礼状の書き方について					
	11	ひなた村自然塾実習について					
	12	ひなた村自然塾実習の振り返り					
	13	実習日誌の役割について					
	14	実習日誌の書き方について					
15	後期に向けて夏休み中に行うことについて						
評価方法	①授業態度 ②提出物 ③実践への取り組み 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度	○	◎		◎		50%
	提出物	◎			◎		20%
	取り組み		◎		◎	○	30%
履修上の注意	出席が10回に満たないものに単位の修得は認めない						

科目名	教職概論						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	上村 仁美		
実施年度	2019	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	保育者として必要な共通の知識・技法を身につけていけるように実践的な練習を行う 保育者としての使命感や責任感、社会性や対人関係能力などを培い、保育指導力を高め、						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
						保育者の役割と倫理について理解する	
	◎					保育者の制度的な位置づけを理解する	
	◎					日本における教師の歴史の流れを理解する	
				◎		保育者の協働について理解する	
	◎			○		保育者の専門性について考察する事が出来、また専門的成長についても理解する。	
テキスト・教材 参考図書	新訂 教職入門 ～未来の教師に向けて～ 古橋和夫(編)/萌文書林 保育の学びスタートブック 久富陽子 編著/萌文書林						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業オリエンテーション 教師について考える「わたしの目標」作成					
	2	「教師・保育者になる」という事「わたしの目標」発表			「私の目標」ワークシート持参		
	3	保育者としてのマナー(身だしなみ)			スーツ登校		
	4	保育者としてのマナー(言葉について)			教科書の当該範囲を読んでおく		
	5	保育者に必要な「協働」と「合意」			教科書の当該範囲を読んでおく		
	6	チームとしての保育とは			教科書の当該範囲を読んでおく		
	7	絵本から学ぶ事			教科書の当該範囲を読んでおく		
	8	日本における教育の歴史			教科書の当該範囲を読んでおく		
	9	現代社会のこども			教科書の当該範囲を読んでおく		
	10	こどもの生活と援助 幼稚園 保育所 認定こども園の生活			教科書の当該範囲を読んでおく		
	11	こどもの生活と援助 遊びとは			教科書の当該範囲を読んでおく		
	12	保育者としての人間性「感謝の気持ちを持つ事」			教科書の当該範囲を読んでおく		
	13	保育者としての人間性「感性磨く」①			教科書の当該範囲を読んでおく		
	14	保育者としての人間性「感性磨く」②			教科書の当該範囲を読んでおく		
15	保育者としての人間性「教師に必要な要素」			教科書の当該範囲を読んでおく			
評価方法	(1)宿題・レポートを数回実施(2)授業中の発表回数・意欲・態度 以上を下記の観点から評価する。評価を行う成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下とする)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	○	◎		○		50%
	意欲・態度・発表				◎		50%
履修上の注意	教育実習指導Ⅰの科目と授業内容がリンクしています。						

科目名	劇あそび(指導法)SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中村 芳子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	劇団の講師のアドバイスや指導を基に保育者として必要な表現力、人前に立つ力、発想力などを身につけ、チームで創作劇を製作。出来上がった作品を保育園の園児に披露する。チームでお互いの意見を出し合いながら一つのものを作り上げていく事で協働の力も身につけていく。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他		
			○	◎		創作劇の製作を基に自分の意見を人に伝える事や相手の話を聞く力をつける。	
		○	○			プロの劇団の講師陣から表現の手法を学び、自分達も実践する中で表現する楽しさを味わう。	
		○				自分達が創作劇した劇を披露する中で、子ども達の反応を学ぶ 身近な日用品から何か出来るかを発想し、その道具を使い別のものを表現する事ができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション アイスブレイク(レクリエーション)			創作劇に必要な道具をもってくる		
	2	劇団「道化」によるデモンストレーション「なにができるかな」			創作劇に必要な道具をもってくる		
	3	グループ分け 創作劇練習①			創作劇に必要な道具をもってくる		
	4	創作劇練習②			創作劇に必要な道具をもってくる		
	5	創作劇練習③			創作劇に必要な道具をもってくる		
	6	保育園児への創作劇「発表」①			創作劇に必要な道具をもってくる		
	7	教員発表向けの創作劇へのブラッシュアップ 練習			創作劇に必要な道具をもってくる		
	8	発表② まとめと振り返り			創作劇に必要な道具をもってくる		
評価方法	(1)SCの出席(2)SC中の取り組みに対しての意欲関心態度(3)出来上がった作品の完成度(4)個人の表現力を以下の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	SCの出席					◎	10%
	創作劇製作への取り組み				◎		30%
	作品の完成度		○	○	○		30%
	表現力			◎			30%
履修上の注意	遅刻(30分以上)欠席の場合近畿大学の履修規定により、単位習得不可とする。						

科目名	健康(指導法)SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	前田 聖悟		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	幼稚園教育要領や保育所保育指針における「健康」領域の中核的な保育内容となる「運動遊び」に関する保育者の指導・援助のあり方を模擬運動会での実践を通して体系的に学んでいく。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			グループやクラスでの活動を通し協力的に実践を計画・実施していくことができる。	
	○					模擬運動会の計画・実践を通して「運動遊び」に関する知識を深めることができる。	
	○	○				企画した遊びを通して保育者の指導・援助のあり方を学ぶことができる。	
				○		子ども、健康、からだ、スポーツなどの事項に関して日常的に興味関心を持つ事ができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日目(学年交流会への参加)					
	2	1日目(学年交流会への参加)					
	3	1日目(学年交流会への参加)					
	4	1日目(学年交流会への参加)					
	5	2日目(体育祭への参加)					
	6	2日目(体育祭への参加)					
	7	2日目(体育祭への参加)					
	8	2日目(体育祭への参加)					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	グループ内での協働・参加状況				◎		50%
	企画・運営したものの内容		○	◎	○		50%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	合奏 I						
科目名(英)	Ensemble						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中村寛子 高松聡美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	保育の現場において必要不可欠な音楽、専門的な知識やそれを応用できる力が求められる。この授業では保育現場で活用できる曲や楽器を中心に取り組み、クラス単位で協力して準備・練習に取り組むことで、「コミュニケーション力」「チーム力」「忍耐力」「協調性」「人を思いやる心」を身に付ける。また資料、楽譜、楽器等自分の物、公共の物を大切にすることを身に付ける。7月予定の慰問コンサートに向けて曲を仕上げることができる。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
						○ 自分の資料・楽譜に記名、ファイルに収め管理することができる。	
						○ 使った楽器を元どおりに片づけることができる。	
			○			整列する、静かにする等練習の態勢を素早く整えることができる。	
				○		できないところを繰り返して練習に取り組むことができる。	
		○	○			クラスメイトと協力し合奏としての作品を仕上げることができる。	
テキスト・教材 参考図書	中村寛子編曲集						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	合奏とは一講師の模範演奏・楽譜配布・資料楽譜楽器管理の徹底			資料・楽譜用ファイルの準備(様式不問)		
	2	練習一楽譜を読む パート分けをする 役割分担を決める			楽譜をなくさないようにすること 繰り返し練習をしておくこと		
	3	練習一個人練習をする パート練習をする			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと		
	4	練習一通せるようになる			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと		
	5	練習・レベルアップー強弱をつける テンポ感の調整			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと		
	6	練習・レベルアップー全体の流れの調整			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと		
	7	練習・レベルアップー総仕上げ			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと		
	8	練習・レベルアップー総仕上げ			クラス全員で繰り返し練習をしておくこと		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)資料・楽譜の管理ができていないか。(2)授業中の態度・意欲。(3)作品発表を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品			○			30%
	授業態度				◎		40%
	資料・楽譜・楽器管理					○	30%
履修上の注意	作品(曲)を仕上げる練習過程を大切に。						

科目名	人間関係(指導法) SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川端 いづみ		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	子どもの人間関係形成をめぐる諸課題について理解を深め、5領域『人間関係』の内容及び意義について学ぶ。また、子どもが単に集団にうまく適応することのみを問題にするのではなく、他者理解を通して人の豊かな関わりを経験することの意義を学ぶ。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		宿泊での活動に、自ら意欲的に参加することができる。	
	○					講義の課題に対して、自らの考えを積極的に発して議論することができる。	
	○	○		○		演習を通じて、他者理解を深めることができる。	
		○		○		人間関係の重要性に気づき、保育者の役割を自覚することができる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	1日目	オリエンテーション・アイスブレイキング				
	2	1日目	コミュニケーションの大切さを学ぶ				
	3	1日目	集団における自己の発達について学ぶ				
	4	1日目	野外活動を通じて協働の重要性を学ぶ				
	5	2日目	他者理解を深めるエクササイズ				
	6	2日目	ウォークラリーにて仲間意識を育てる				
	7	2日目	ウォークラリーにて仲間意識を育てる				
	8	2日目	振り返り				
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	グループ内での協働・参加状況		○		◎		80%
	ディスカッションの状況		○				20%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	造形表現(指導法)						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	岡山直之		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科・1年生						
授業概要	造形技法の名称とぎほうの内容を知り、それを使って表現し発表する。そのことを通して技法とその指導法を身につける						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					造形技法の名称とその内容を説明することができる。	
	○	○				造形技法の実技を通してその指導法を応用することができる。	
		○	○	○		造形技法を組み合わせることで作品を制作することができる。	
	○	○		○		制作した作品を他者に説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	技法①フロッタージュ(模様を写し取る)を学ぶ				制作作品をイメージ化しておく	
	2	技法②スクラッチ(ひっかいて描く)を学ぶ				制作作品のイメージを固める	
	3	技法③コラージュ(異素材を貼り合わせる)を学ぶ				作品のイメージを具現化(スケッチ)する	
	4	上記3つの技法をミックスして1つの作品を制作し発表する					
	5	技法④デカルコマニー(対称の模様)を学ぶ				制作作品をイメージ化しておく	
	6	技法⑤ストリングデザイン(糸の模様)を学ぶ				制作作品のイメージを固める	
	7	技法⑥バチック(はじき絵)を学ぶ				作品のイメージを具現化(スケッチ)する	
	8	上記3つの技法をミックスして1つの作品を制作し発表する					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	①宿題・レポートを数回実施する ②作品を制作しそれを発表する 以上を下記の観点・割合で評価する						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート	○			◎		20%
	発表・作品	○	◎	○	◎		80%
履修上の注意	欠席が3回以上になる場合、単位は与えない。						

科目名	幼児と環境						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	阿部 良寛		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	幼児教育の基本、領域「環境」のねらいと内容を理解する。人的環境としての保育者に求められている社会的役割について認識し、子どもの育ちにとって大切にされているものを環境の視点から考察する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		保育における環境とは何かを説明することができる。	
		○		○		保育現場において自分たちで考えた設定保育を実践できる。	
	○	○		○		現代社会において求められる保育者像を理解し、説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	幼稚園型認定こども園における保育の内容について				ミニ保育の準備(グループごと)	
	2	保育者の役割				ミニ保育の準備(グループごと)	
	3	認定こども園での体験学習(子どもたちとの出会い)				絵本・紙芝居、歌遊び等のリハーサル	
	4	認定こども園での体験学習(ミニ保育)				絵本・紙芝居、歌遊び等のリハーサル	
	5	認定こども園での体験学習(給食の場面)				絵本・紙芝居、歌遊び等のリハーサル	
	6	保育園での体験学習(子どもたちと草スキーをする)				保育園についての事前学習	
	7	現代社会が求める保育者像				体験学習振り返りシートの記入	
	8	自分のなりたい保育者とは?				振り返りシートに基づいた省察	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	グループ内での協働・参加状況		○		◎		80%
	振り返りシート(レポート)		○				20%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	幼児の心理学						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川端 いづみ		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科1年						
授業概要	心理学で得られた知識や方法、技術を教育という現場で応用できるように実践を交えて習得する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		気になる子どもたちについて知る	
	○	○		○		人と人との関わり方について知る	
	○	○		○		保護者との関わりについて知る	
	○	○		○		現場で生かすにはどうすべきか考える	
テキスト・教材 参考図書	保育に生かす教育心理学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	教育心理学の方法			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	発達と初期環境			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	自己意識の誕生			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	学習行動の基礎(条件づけ)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	学びの動機付け			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	知的能力の発達			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	パーソナリティの発達			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	教育・保育における評価			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	発達障害のある子どもの教育・保育(1)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	発達障害のある子どもの教育・保育(2)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	保育における集団			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	就学に向けて(幼・保・小連携)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	家族ぐるみの教育的支援			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	子どもをめぐる教育的支援(不登校・不登園・虐待)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	定期試験						
評価方法	(1)小テストの実施。(2)定期試験の実施。以上をふまえて下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(60点未満)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				5%
	宿題・レポート		◎				5%
	発表・作品	○			◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	環境(指導法) SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	藤崎 久美子		
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	保育園「ひなた村自然塾」での農作業体験を通して、我々が何気なく過ごしている日常について考える機会を設けるとともに、「食」と「環境」についてを深く学び、私達における将来の行動指針や自然や食のあるべき姿についても深く考え、今後の生き方や育児についての学びを得る。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		自然に触れながら、自ら意欲的に参加することができる。	
	○					講義の課題に対して、自らの考えを積極的に発して議論することができる。	
		○				農作業体験と講義の内容を通して「食」と「環境」について改めて深く考えることができる。	
		○				自らの直がれている「環境」について受けている影響についての学びを深めることができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	1日目	田植え体験・畑仕事体験				
	2	1日目	田植え体験・畑仕事体験				
	3	1日目	田植え体験・畑仕事体験				
	4	1日目	講義			実体験と講義の内容を踏まえて、別途にレポートを作成	
	5	2日目	稲刈り体験・畑仕事体験				
	6	2日目	稲刈り体験・畑仕事体験				
	7	2日目	稲刈り体験・畑仕事体験				
	8	2日目	講義			実体験と講義の内容を踏まえて、別途にレポートを作成	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	行事への参加態度				◎		25%
	講義の参加状況				○		25%
	レポートの内容	◎	○				25%
	ディスカッションの状況		○				25%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	交流ゼミ I						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	中畔政憲・上村仁美・下川武志		
実施年度	2019年度	実施時期	通年	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	こども未来学科 1年						
授業概要	こども未来学科の全学年の学生を混合し、グループを編成。そのグループ内で学年を超えた交流を図る。最終的には、当科で実施する年2回の「交流会」に向けての準備をおこなっていく。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		積極的な姿勢を持って、他学年の学生やグループ内の学生とコミュニケーションを図ることができる。	
				○		物事の段取りを修正しながら、臨機応変な対応を行いつつも計画的に行事を実行することができる。	
				○		物怖じすることなく、積極的にレクリエーションに参加することができる。	
				○		グループの中心となり、レクリエーションを企画・運営することができる。	
			○		人間同士の関わりの中で、人間関係の調整を図ることができる。		
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	3学年全体でのレクリエーション					
	2	3学年全体でのレクリエーション					
	3	グループ内でのレクリエーション					
	4	こども未来学科「交流会」に向けての準備					
	5	3学年全体でのレクリエーション					
	6	3学年全体でのレクリエーション					
	7	グループ内でのレクリエーション					
	8	こども未来学科「交流会」に向けての準備					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	ゼミに臨む姿勢、態度が第一優先である。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
履修上の注意	2/3以下の出席状況にて、単位習得不可とする。						